

表題：第4回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成25年8月5日（月曜日） 18時03分から20時35分
- 2 場 所 町民会館第2会議室
- 3 出席者 （構成員） ※敬称略
飯田弘、榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、
清水久央、中沢清、野本多恵子
（協働施策推進アドバイザー）
辻山幸宣（財地方自治総合研究所所長）
（瑞穂町郷土資料館館長）
滝澤福一
（事務局）
住民部長田辺健、地域課長大井克己、地域課地域係長友野裕之、
地域課地域係主任福島聡
- 4 欠席者 近藤隆幸
- 5 議 題 1 協働宣言の策定に向けた自由討議（3回目）
2 その他
- 6 配付資料 1 次第（当日配付）
2 瑞穂讃歌（郷土史編）（当日配付）
3 （仮称）瑞穂町協働宣言策定に向けた検討資料（当日配付）
4 瑞穂町ガイドマップ（当日配付）
5 第3回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
- 7 開会
座長
- 8 あいさつ
住民部長
- 9 講演
テーマ：『瑞穂町の郷土と歴史』
講師：瑞穂町郷土資料館館長 滝澤福一氏
概要
「瑞穂讃歌（郷土史編）」及びプロジェクターを使用し、瑞穂町の地形を知るところから始まり、村の成り立ちや原始から近代までの歴史について、約70分間の講演をしていただきました。
講演の後、質疑応答を行いました。
- 10 議題 1 協働宣言の策定に向けた自由討議（3回目）
前回に引き続き自由討議を行いました。今回は主に、協働に関するキーワードや協働するためには何が必要か、瑞穂の協働とは何なのか等についての自由に意

見を交わしました。

※自由討議等で出た意見を以下のとおり概要をまとめました。

はじめに

会議の方針

- ・ 少しずつまとめていかなければならない。
- ・ 協働に関する意見も絞っていかなければならない。

辻山氏からの意見

前回までの会議のまとめを見て

- ・ 協働の議論で行けば、全部いろんな角度から出ている。それだけに、ひとつにまとめていくことの難しさがあるのではないか。
- ・ 絞り込んでいくには妥協が必要となる。

各自が考える協働とは（キーワードを含めて）

- ・ 自立自助の意識を持つということをキーワードにするとしたら、「共生」という言葉が良いのでは。自立自助の意識を持つことと「共生」ということでまちづくりをしていけば、いろんな人々が連携して互いを補い合い、負担するところはお互いに負担していくという形であれば、弱者の方の配慮にもなる。
- ・ ボランティアという言葉あまり前面に出さない方が良い。やれる人がやっていくということ、つまり、自然にいつの間にか町民全員が関わっている、知らず知らずのうちに協働に参加しているということの方が理想的ではないか。
- ・ 「協働で・住みよい瑞穂・汗かこう」。「汗」というのは目的達成のために懸命に努力するという意味で捉える。
- ・ 瑞穂に昔から住んでいる人はどちらかという土着意識が強い。それぞれの地域での意識も非常に強い。その辺の意識が瑞穂町全体でやろうという意識に変わっていけばいいのではないか。
- ・ 公共の物事に関わっていこうという意識を持たせるような言葉が見つければ良い。
- ・ 行動が必要である。意識調査の結果を見ても回収率が50%ということであまり意識がない。瑞穂町をこうしていきたいということを町民の皆さんが考えていないというのが現状である。
- ・ 「育てよう瑞穂」や「生まれたい町」など簡単に考え付くようなものでも良いのではないか。「住みよい町」というよりは「生まれる町」や「自分達で瑞穂町を育てよう」というキーワードの方が良い。
- ・ 瑞穂町に何で住んでいるのかを問いかけるというか、何も考えずに住んでいるかもしれないが、何でこの地にいるのかということをお皆が考えられるようなこ

とが良いのでは。

- ずっとここに住んでいたいと思えるようなものを作っていくというか、ずっとここで生きていたいというものを生かせるようなものが必要なのではないか。
- 職員の方が仕事ではないところで関わっていき、目に触れる形でリーダー的にやっていってもらえると地域の人も動いていくのではないか。
- 自分が瑞穂に住み続けたいと思うような町づくりをしていく。自分がいたくないという町づくりではなく、これからも住み続けたいという町づくりが良い。
- いろんなどころで人と関わって行く中で、自分が住みたい町になれば良い。
- 縁を大切にすることが入っていればよい。
- 楽しい活動ということを入れていきたい。みんなで楽しい活動をやっていく。楽しい活動なら多くの方が集まっていただけではないか。

辻山氏からの意見

- 「補い合う」、「汗かこう」などコピーとして使える言葉はたくさんあった。
- 「公共」というものを作り出していくという、皆が町づくりをやっているもどこかで「公共」という部分に繋がっていなければという意識である。
- 「行動」ということについて、人々はなぜ一緒に動いているのだろうか、動かなければならないのだろうか、と共感してもらう言葉が必要である。
- 「住み続ける」、「縁あって住んでいる」など、現になぜこの町にいるのだろうかということに思い当たるようなそういうものをどのように放り込んでいくかである。
- 皆でやろうといっても、途中で抜けるとかいう協働はあまり好きではないので、動いていることが楽しいということをいかに実現していくかである。
- 元々は、人々が地域で生きていくことを互いに担い合う、人々同士が繋がるという「共同」、それから同じ目的を持った人たちが集まってやる協同組合とかいう「協同」がある。それから「協働」である。この3つそれぞれニュアンスが違うということをどこかで意識しておく必要がある。
- 協力して働くという「協働」を使っているのも流行の言葉で言えば、コラボレーションという言葉が出てくる。違う役割とか違う性質のものが合わさってある効果を生み出すという意味で、性質の違うものがといった意味は、行政が一方にいるかどうかである。行政と手を携えてというときに「協働」と用いる。まさに違う立場のものが一緒になって目標を持って生み出していこうということである。
- この町を皆で力を合わせて良いものにしていこうと住民達が宣言するのは「共同」宣言であるので、それを区別していかないと、私達が主体となり責任を持ってこの町をつくっていくんだという「共同」ということで中身を打ち出したら、それは行政によって上手に使われているとなってしまう。行政がいる必要がない訳である。そこでうまくやらないと、いくつかの行政が提案してきた協

働というものと一緒に参加した結果、協働疲れとなってしまうということとを以前話したが、そうはなって欲しくない。

協働するためには何が必要か？について

- ・ 「共生」は良い。一緒にそこで生きていくという意識である。
- ・ 皆でやるから楽しいということもある。
- ・ 皆が参加してもらえそうなことがあれば良いのではないか。
- ・ それぞれで得意分野があってそれぞれ活かすことができるが、個でやっていることを町全体で考えるときにどうコントロールするのかということになる。
- ・ 自分達がやっている協働に行政が入ってきた時、誰がコントロールして、何をテーマにするのかということを作っていないと、よくあるスローガンに終わってしまうのでは。
- ・ 具体案ということで、行政側と町民が一体となるとあまりにもやることが多いので、シンプルに誰が見ても分かるような協働を作らないと難しいのではないか。
- ・ 自分がやっていくことではどんどん和が広がって行政の側に働きかけていって、一緒にやりましょうということができていくが、最初から協働という言葉がある中での協働というのは非常に難しいのではないか。
- ・ 「協働」も、ひらがなで良いのではないか。自分達がやる共同も役場とやる協働も合わさっているので、どちらが主でやるかということである。どっちにしても自分達がやらなければならないということである。
- ・ 自分達の生活レベルや環境が今以下にならないよう、維持またはもっと良くしていくことのために協働をやっている。
- ・ 公共の事業に対して皆が関わりを持って考えていくかということのポイントにして、後の協働についてはそれができればいくらかでも一緒についてくるのではないか。
- ・ こんなところに住みたくないという人が大半だったら何も動かないと思う。逆に全員が瑞穂町大好きとなるにはどうしたら良いかとなったら、ずいぶん大きなことであるが、皆でやろうという思想をベースでやっていく必要があるのではないか。
- ・ 「協働」をするときに、行政と住民がいて、役所の方に全面的に巻き込まれないようにするための組織作り、仕組み作りも必要なのではないか。
- ・ 誰がマネジメントするかとか、ファシリテーターとなる人が役場になるのではなくて、住民側の方にも誰か引っ張ってくれる方がいれば良いのではないか。
- ・ 宣言を出すためには、自然発生的には無理なのであろうが、やっぱり行政が主導でないとう無理なのか。
- ・ この宣言を出したとき、関心を持ってもらえるのか。投票率の低さに繋がっているような気もするので、本当にしっかりとした宣言を出さなければならない。

行政側からの意見

- ・ 多様な人達が集まる機会作り、きっかけ作りが必要であり、また、それをまとめ上げていく強力なリーダーシップやファシリテーターが必要である。
- ・ 瑞穂町の投票率が低いことも考える必要がある。無関心とか、政治に魅力が無いとかある中で瑞穂町らしいものを見出していけたら良い。
- ・ 無関心はよそうとか、何事にも関心を持とうということである。投票率についても、関心の無さそうといったものが払拭され、逆に何でも積極的に関心を持とうといったことが必要ではないか。
- ・ 皆さんとの出会いの場を作っていく、そういったところに行政が加わっていくような地域づくりが必要である。
- ・ 協働ができる場所や、やっていくんだという意識のある人、また、そういうものを駆り立てるような気持ちの部分も必要である。また、気持ちの部分でいろんな人に流布していくような部分も必要である。

辻山氏からの意見

- ・ 協働と言ったときに、行政が一方にいるという例えを出したが、違った生き方をしている人達が、あるいは違った考え方の人達、違った立場の人達が何か一緒にやれるかという組み方もありえる。その中に、初めから行政を排除しておく必要は無いが、いなくても成り立つ協働もある。
- ・ NPOという形である程度組織でやっている方と、良いときにやってもらおうというボランティアの方とどううまく繋がっていくのかも協働と考えれば、少し広めであるが、十分組み立てることは可能ではないか。

瑞穂らしさとは何か・瑞穂町の売りとは何か

- ・ サイズ的にひとつになれる町。
- ・ 人と自然がおりなす町。
- ・ 田舎だけど東京、東京だけど田舎。
- ・ 7市に囲まれた緑の美しい町。
- ・ 純朴で温かい。
- ・ 何もない町、通り過ぎる町、つまらない町とか逆の発想があってもインパクトがあり、面白いのではないか。
- ・ 今という生活、時間を作り出しているのに、ゆっくりとした時間も感じられる両方が見られる町。
- ・ 高齢者や障害のある方を考え、緑と人の優しさがある町、となって欲しい。
- ・ 人見知りとか、ぶっきらぼうとか慣れてくればすごく良い人達だが、とっつきにくいというものもあるのではないか。
- ・ 大きい自然ではなく、ちょっと手を伸ばすと感じられる小さな自然がある。

- ・ 小さい町なのに、色んな産業が結構ある。農業やお茶の他にもいろんな魅力がある。
- ・ (滝澤先生の講演内容も含め) 歴史に裏付けられた街道を通じて賑やかな時代もあったということを前面に出してもいいのではないか。小さな町なのに街道がいっぱい集まっていて今も大きな道がいっぱいあるということは、ここが出発点でどこかに繋がるとか、ここが終着点で皆が集まるようなものがある。
- ・ (防災キャンプを例えに含め) 何でもできそうな町だと思う。ある程度のことをやればできるんじゃないかなと。そのように突き破っていくことが大事ではないかと思いました。

辻山氏からの意見

- ・ 道を歩いていると昔の人が歩いた足跡があるのではないかと思うくらい、歴史の足跡が残る町である。

行政側からの意見

- ・ 自然も残りつつ、歴史が流れていく町。
- ・ まだまだ成長期であるということ。町の発展もそうですし、まだまだ他の市に比べると成長していけるところがあるのではないか。
- ・ 洪水が起こっているところもあったり、地震もいつ起こるか分からない中、頑強な地盤の関東ローム層の上にもあり、そういう意味では安全な町である。ただ、飛行場があるという意味では危険性はある。
- ・ 幹線道路が多いので輸送力が凄い、また、工業も凄いということ。

今後の会議のあり方・進め方等

- ・ 魚の骨のように項目を出して行って、そこに少しずつ当てはめていくようなことも必要なのではないか。それとまだ話し足りない部分はその中で入れていきながら話をまとめる方向で進めてもよいのではないか。
- ・ グループ分けしても良いのではないか。
- ・ 元々住んでいる人がいて、自分達が手に負えない部分をお金を出して役所という組織を作って、それを住民側が使ったんだというお話もありましたよね。そういうところから、どのように行政を使っていったら今後良いのかなど、原点に立ち返って考えてみても良いのかなと思います。
- ・ ポストイットとか模造紙を使い、考えたことなどを貼り付けていくようなやり方も良いのではないか。
- ・ 絞り込んでいく過程で、役場が町民にやろうよと意図するようなこと、逆に町民が行政にこんなことがいいということ、それと町民どうしのやれることの協働の3つぐらいに大きく分けてみる。

議題 2 その他

事務局から次回会議の日程調整を提案しました。